

# 中井町の公共交通の現状と課題について

## 1 中井町の公共交通に関する現況

### (1) 地域特性

#### ①人口動向 →定住環境を高める公共交通の充実により人口増加を目標

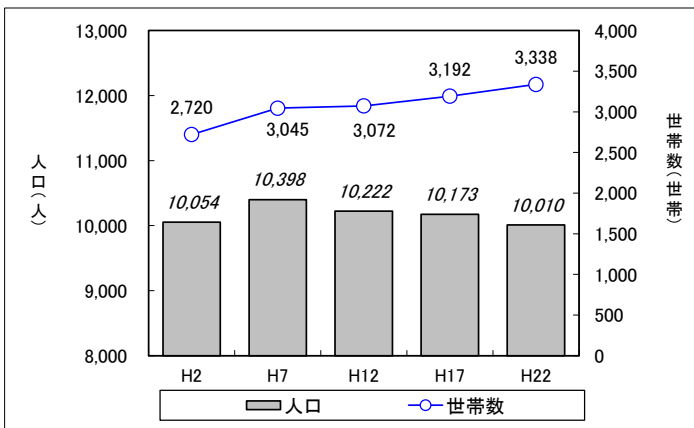
中井町の総人口は、昭和 40 年以降増加してきたが、平成 7 年以降微減傾向で、平成 22 年 10 月 1 日現在、10,010 人となっているが、「中井町都市マスタープラン（平成 21 年 3 月）」の中で目標とする人口フレームは、積極的な定住人口の誘導により、12,000 人（平成 40 年）を目指している。世帯数は、人口減少に反して少しずつ増加傾向で、平成 2 年から平成 22 年にかけて 20 年間で 22.7%増加し、3,338 世帯（平成 22 年）となっている。

#### ②年齢 3 区分別人口動向 →高齢化の進展

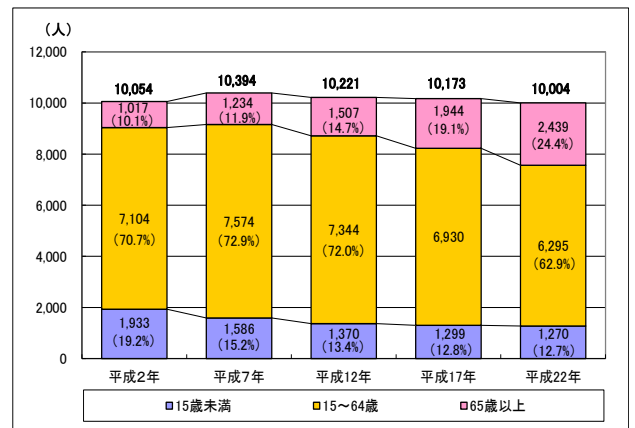
年齢 3 区分別人口は、年少人口（15 歳未満）と生産年齢人口（15～64 歳）が減少傾向で、高齢人口（65 歳以上）は 20 年間で 2.3 倍に増加し、総人口に占める構成比も 24.4%と増加傾向となっている。

本格的な高齢社会の到来により、マイカーでの移動が困難になる人や運転免許証を返納する人の増加が見込まれている。

■人口及び世帯数の推移



■年齢 3 区分別人口構成数 (率)



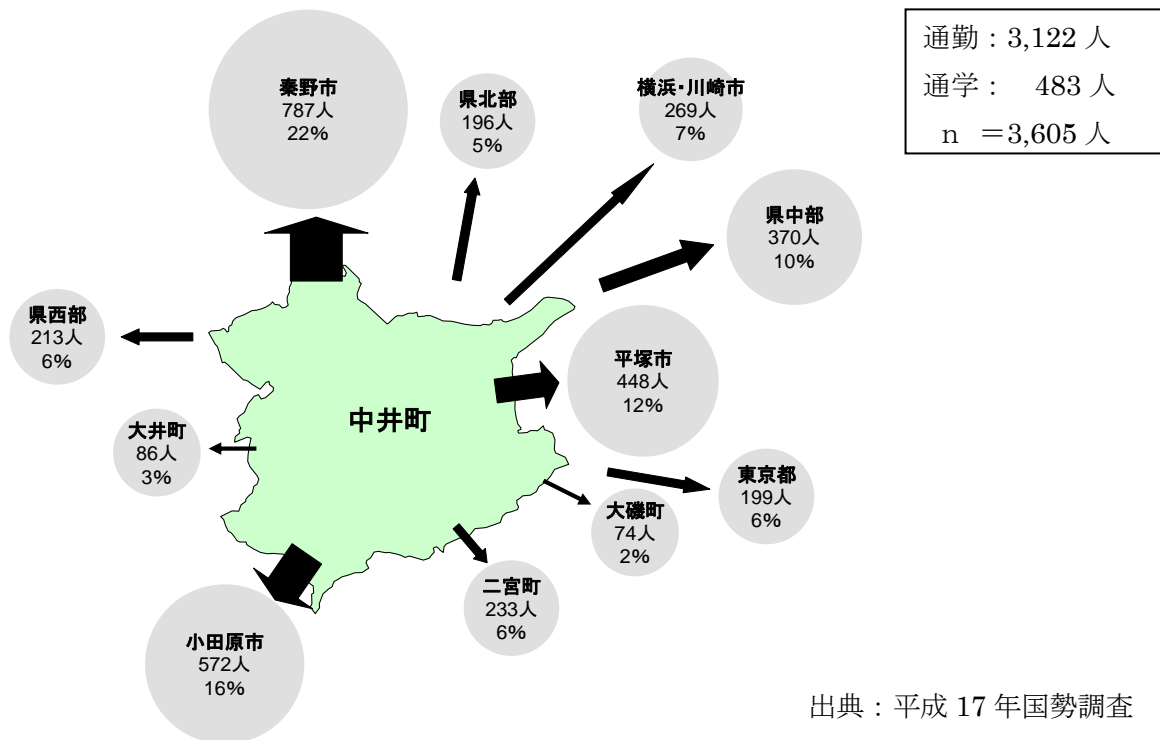
出典：国勢調査 各年 10 月 1 日現在 ※総数には「不群」を含むため、年齢 3 区分別人口を合計しても総数に一致しない。年齢 3 区分別人口の割合は、分母から不群を除いて算出している。



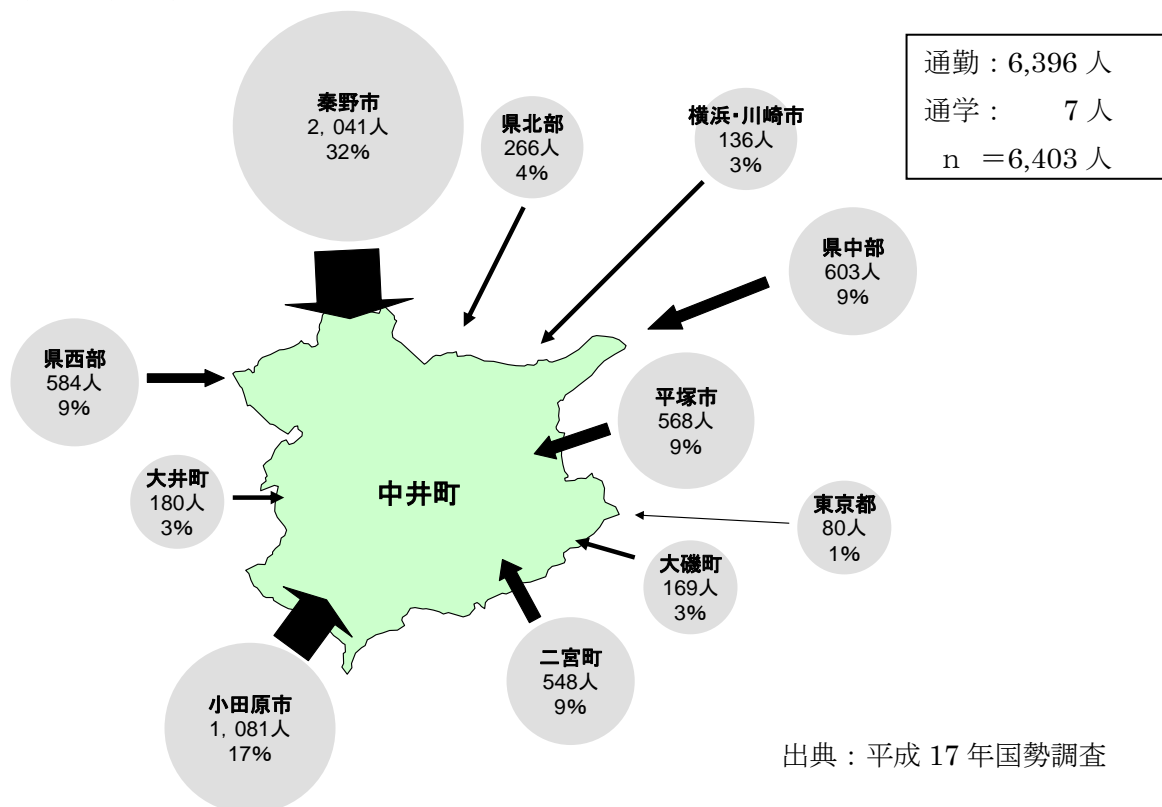
### ③通勤・通学動向

通勤・通学による人口流動は、「グリーンテクなかい」など面的整備に伴い、企業立地等による通勤者が増えたため、町外への流出人口より流入人口が大きく上回っている。町外から町内に就業・通学している人が多いのは、秦野市（32%）、小田原市（17%）であり、町内から町外へ就業・通学している人も秦野市（22%）、小田原市（16%）が多くなっている。

#### ■通勤・通学流出状況（平成17年）



#### ■通勤・通学流入状況（平成17年）



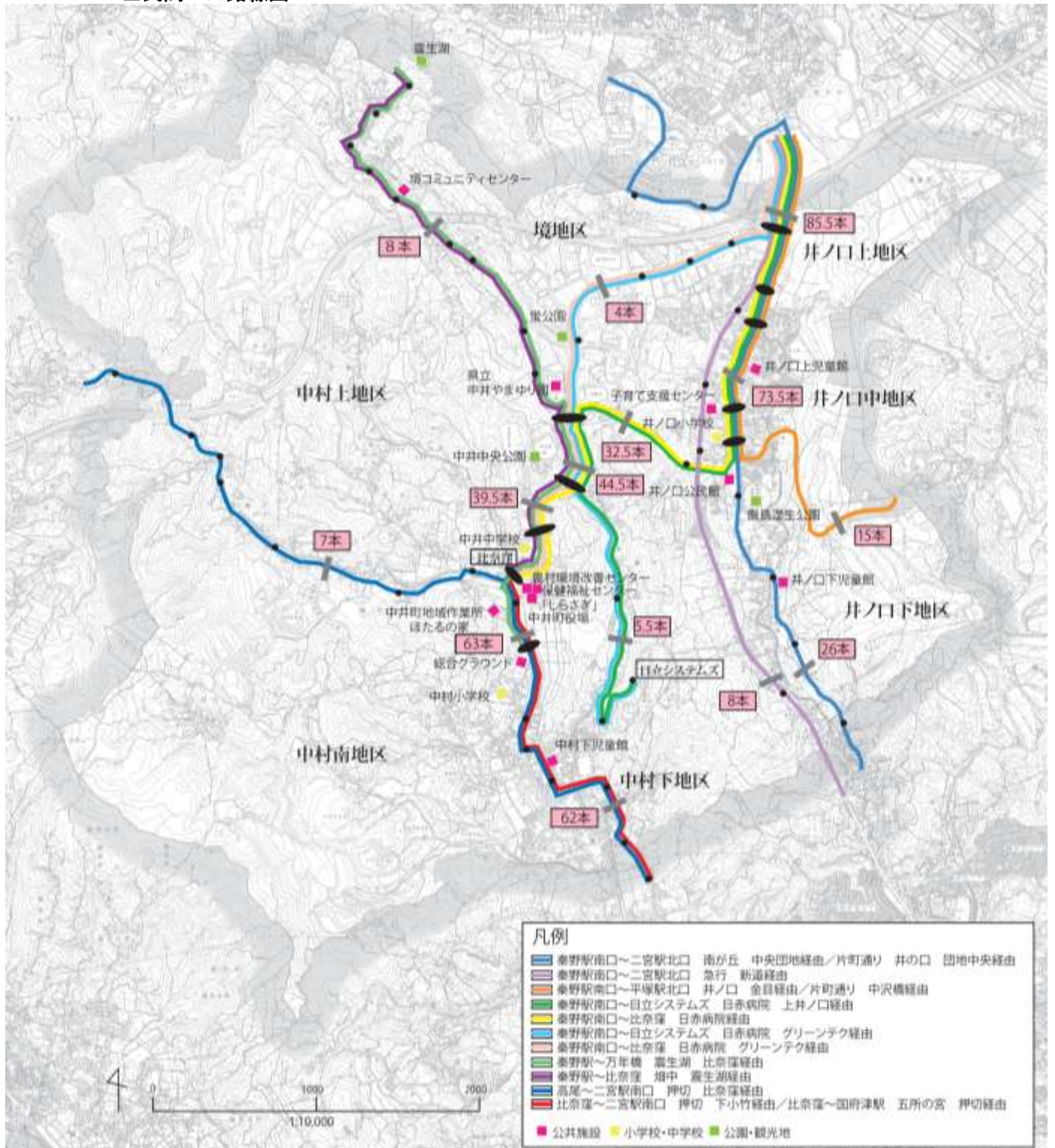
## (2) 既存公共交通の現状

### ① 民間バス路線の運行

町内には鉄道駅がなく、最寄りの鉄道駅はJR東海道線二宮駅・国府津駅と小田急線秦野駅となっている。民間バス路線は、町の中心部である比奈窪バスターミナルと秦野駅・二宮駅や、秦野駅と平塚駅・二宮駅を連絡するように運行されている。

秦野赤十字病院と中井町を連絡している路線は36.5本/日運行されているが、中村上地区、中村下地区、井ノ口下地区から直結する路線は通っていない。

### ■ 民間バス路線図

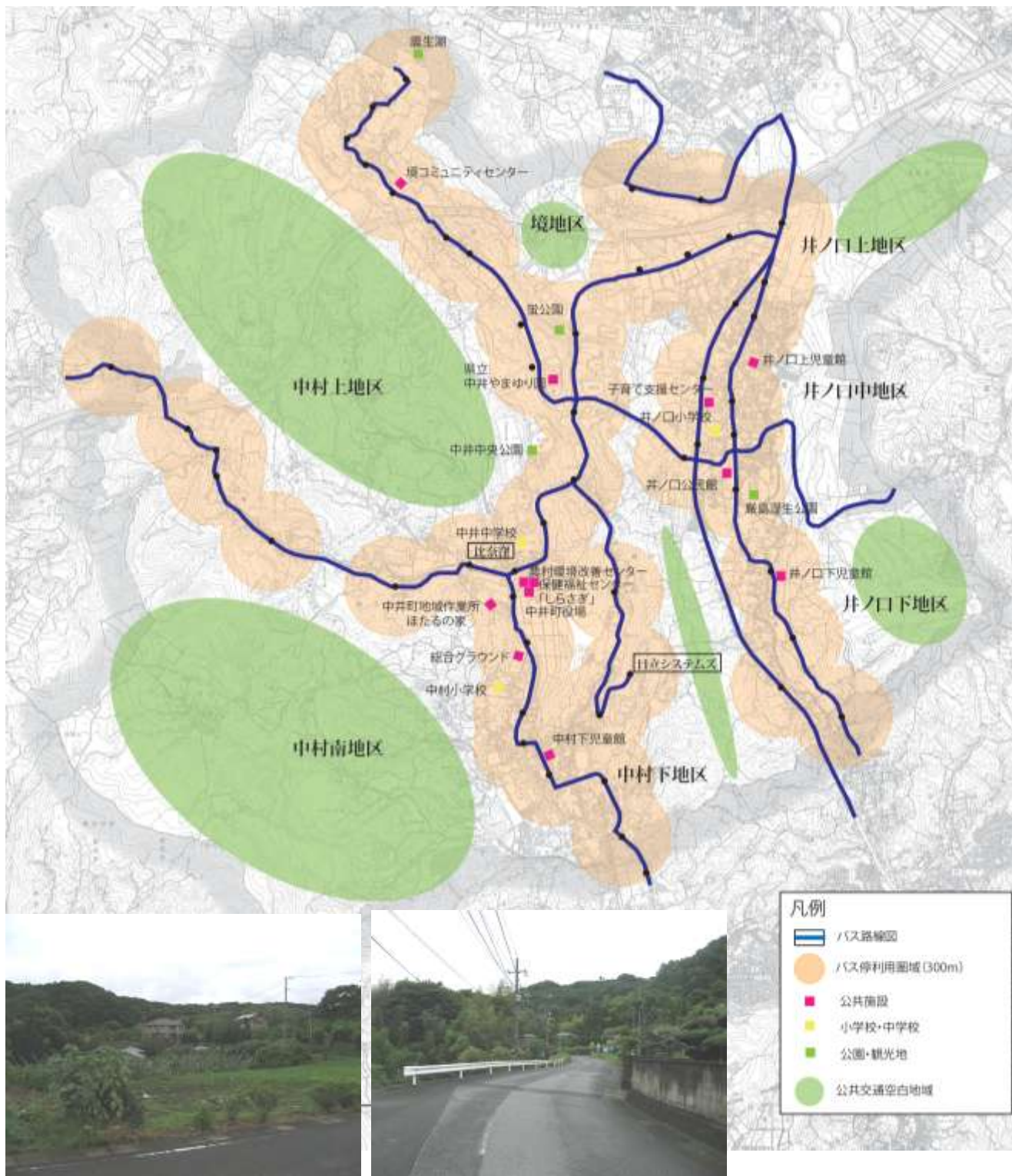


## ②公共交通空白地域

中井町は、大きく中村地区、境地区、井ノ口地区の3つに分けられているが、町全体が丘陵地のため坂道が多く、徒歩や自転車での移動は余り適しておらず、高齢者や学生など自動車を運転できない人の移動に支障を来している。

公共交通空白地域（バス停より半径 300m以遠のエリア）は、町の北西部の中村上地区をはじめ、中村南地区や井ノ口遠藤原地区などで存在している。

### ■公共交通利用圏域及び空白地域図



▲集落が点在する中村上地区（古怒田）

▲県道 77 号線・柄沢口バス停付近

### (3) 上位計画における公共交通の位置付けの整理

上位計画である「第五次中井町総合計画後期基本計画（平成23年3月策定）」及び「中井町都市マスタープラン（平成21年3月改訂）」での公共交通の位置付けを整理する。

#### ①第五次中井町総合計画後期基本計画（平成23年3月策定）

**【計画期間】** 基本構想：平成18～27年度、後期基本計画：平成23～27年度

**【将来像】** 『水と緑、人がきらめく 住んでみたいまち』

##### 【基本目標】

- ①環境と共生するまち
- ②安心して暮らせるまち
- ③豊かな人間性を育むまち
- ④にぎわいと活力のあるまち
- ⑤町民一人ひとりが力を発揮するまち

##### 【施策方針】：定住環境を高める公共交通の充実

町民生活を支える公共交通の維持確保に努めます。また、定住環境を高める新たな公共交通の導入を目指します。

- ①**バス交通の充実**：地域住民の交通手段を確保するため、諸施策によりバス路線の維持を図るとともに、バス利用者拡大のため、路線の見直しやサービス向上をバス事業者に働きかけます。
- ②**公共交通サービスの拡充**：町民生活の利便性の向上を図り、定住のための環境を整備するため、福祉有償運送やデマンドタクシーの導入等、公共交通サービスの充実を図ります。また、町内循環バス等の検討や隣接市町との連携・協力による広域的な公共交通対策に取り組めます。

#### ②中井町都市マスタープラン（平成21年3月改訂）

**【計画の目標年次と人口】** 目標年次：平成40年（2028年）、計画人口：12,000人

**【将来都市像】** 『住む人が誇りを持てる 潤いと活力のあるまち』

##### 【都市づくりの目標】

- 目標1：恵まれた自然を活かした潤いのあるまちづくり【共生】
- 目標2：快適性、利便性のあるまちづくり【快適・利便】
- 目標3：誰もが安心し、一体感をもって暮らせるまちづくり【安心・協働】
- 目標4：魅力と活気のあるまちづくり【活力】

##### 【公共交通の整備方針】

###### ①路線バスの維持及び利便性の向上

路線バスの維持と利便性の向上に向け、バス事業者と協力しながら、路線、運行本数の見直しについて検討を進めます。また、新たな運行形態としてデマンド形式によるバスの運行や、企業等と連携した企業バスの有効利用方策等、新たなバスの運行形態についても調査、研究を進めます。バス停については、ユニバーサルデザインに配慮した改善や駐輪・駐車場の設置等、機能の向上を図ります。

###### ②新たな公共交通システムの導入の検討

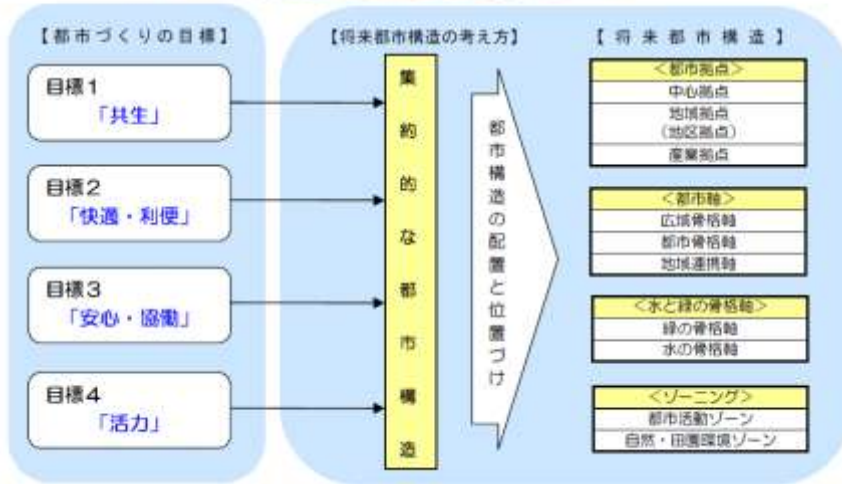
定住人口の誘導をはじめとし、都市づくりの目標を実現するための新規都市機能として、LRT（利便性を高めた路面電車システム）等、新たな公共交通システムの導入について調査・研究を周辺市町と協力し進めます。

## 【将来都市構造の展開】

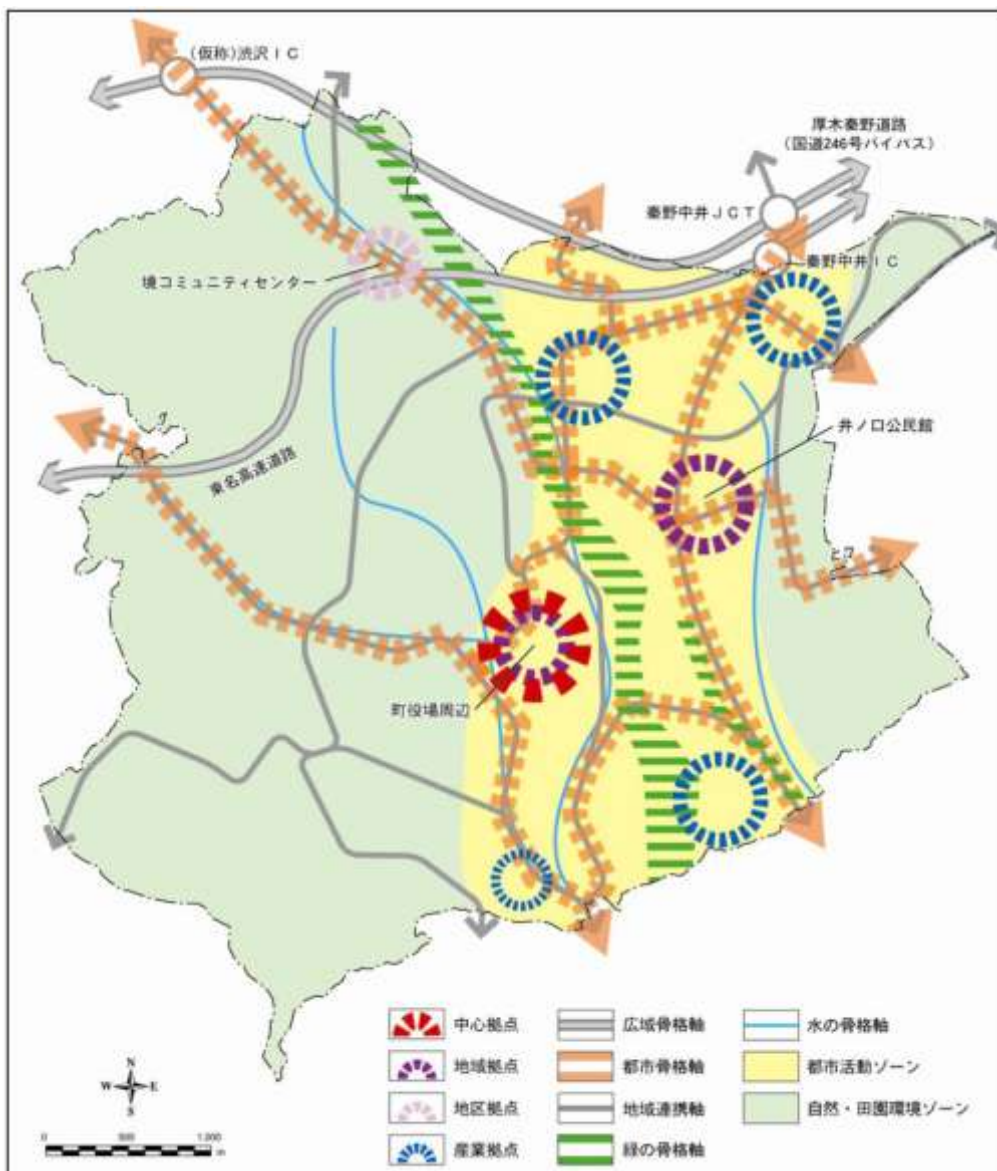
【将来都市像】

住む人が誇りを持てる 潤いと活力あるまち

将来都市像の実現に向けた展開



## ■将来都市構造図



## 2 地域公共交通アンケート調査の実施

### 2-1 町民アンケート調査

中井町民を対象に、日常的な交通行動、公共交通の利用状況及び公共交通の利用意向や改善ニーズ、新しい交通システムの利用意向などを把握することを目的にアンケート調査を行った。

#### ■町民アンケート調査概要

<b>調査方法</b>	調査対象者：住民基本台帳から無作為抽出 15歳以上の町民 1,000人対象 調査方法：郵送配布、郵送回収 調査期間：平成23年9月中旬～9月下旬
<b>回収状況</b>	配布数：1,000票、回収数：539票（回収率：53.9%） ※中村上地区 69票、中村南地区 59票、中村下地区 104票、境地区 44票、井ノ口上地区 77票、井ノ口中地区 118票、井ノ口下地区：66票、地区名無回答 2票
<b>調査項目</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>○回答者の属性（住まいの地区、性別、年齢、職業、運転免許証の有無）</li><li>○生活環境（所有または専用で使える乗り物、世帯の自動車保有台数、家族で自動車を運転できる人の有無）</li><li>○外出行動（主な外出目的、外出頻度、外出先・所在地、交通手段、鉄道利用、外出・帰宅時間、交通行動の不便さの程度）</li><li>○路線バスの利用状況及び満足度（自宅から最寄のバス停までの距離、利用しやすくするための施策、利用頻度、利用目的、バスを利用する理由、運行サービスに対する満足度、今よりも便利になった場合の利用意向）</li><li>○新しい交通システムの利用意向（デマンド交通を導入する場合の運行エリアと利用意向、行きたい場所と利用目的）</li><li>○自由意見</li></ul>

#### ■地区区分図

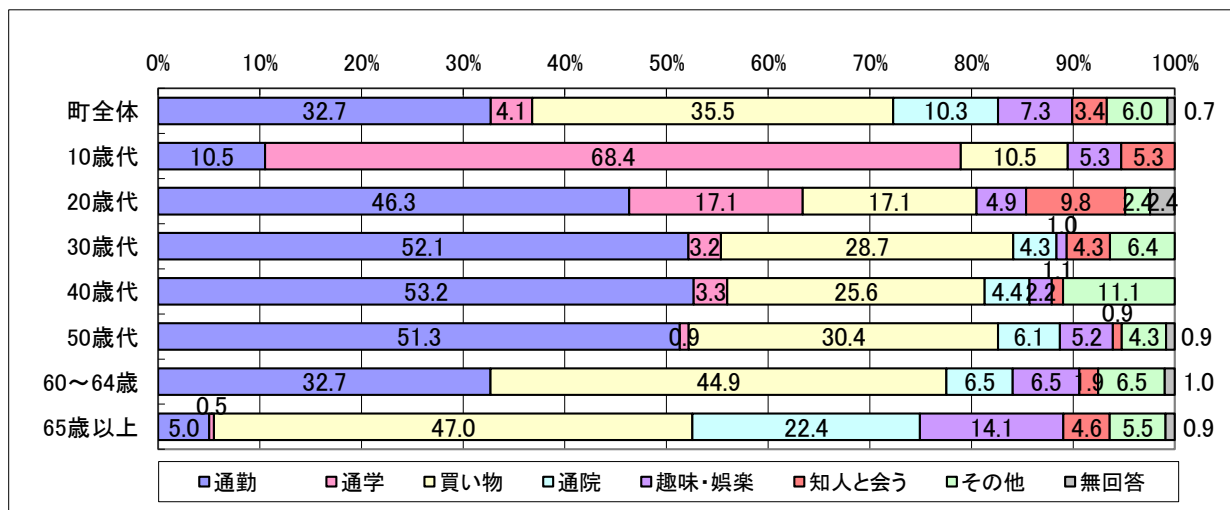


## (1) 外出行動

### ① 主な外出目的

外出目的は、「買い物」が 35.5%と最も多く、次いで「通勤」が 32.7%、「通院」が 10.3%の順となっている。外出目的は、年齢別で見ると 10 歳代は「通学」、20～50 歳代は「通勤」、60 歳以上は「買い物」が多くなっている。

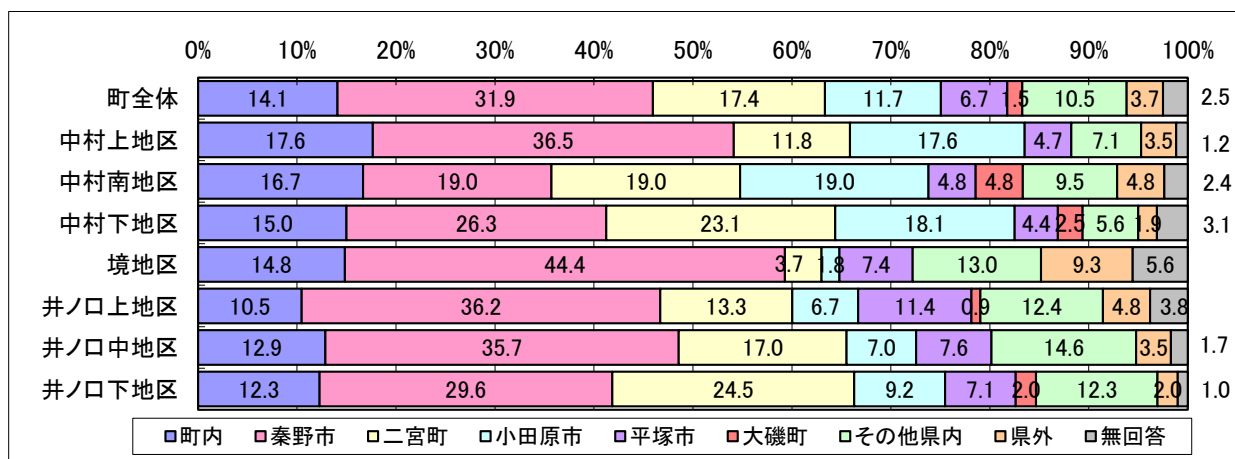
■ 年齢×外出目的



### ② 主な外出先と施設の所在地

町内には、スーパーや病院が少ないため、主な外出先の施設所在地については、「秦野市」が 31.9%と最も多く、次いで「二宮町」17.4%、「町内」14.1%となっている。地区別にみると、中村地区では「小田原市」、井ノ口地区では「平塚市」への外出が他の地区に比べ多くなっている。

■ 地区×外出先の施設所在地

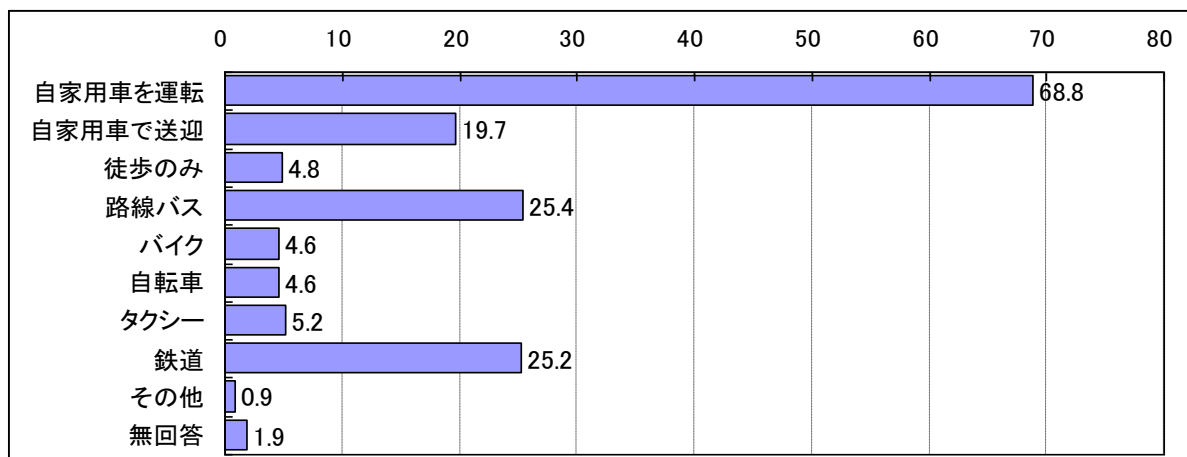




### ③利用交通手段

外出時の利用交通手段は、「自家用車を運転」が68.8%と最も多く、次いで「路線バス」25.4%、「鉄道」25.2%となっている。地区別にみると、井ノ口中地区と井ノ口下地区で「路線バス」の利用が多い。年齢別にみると10歳代及び65歳以上では、「路線バス」の割合が高くなっている。

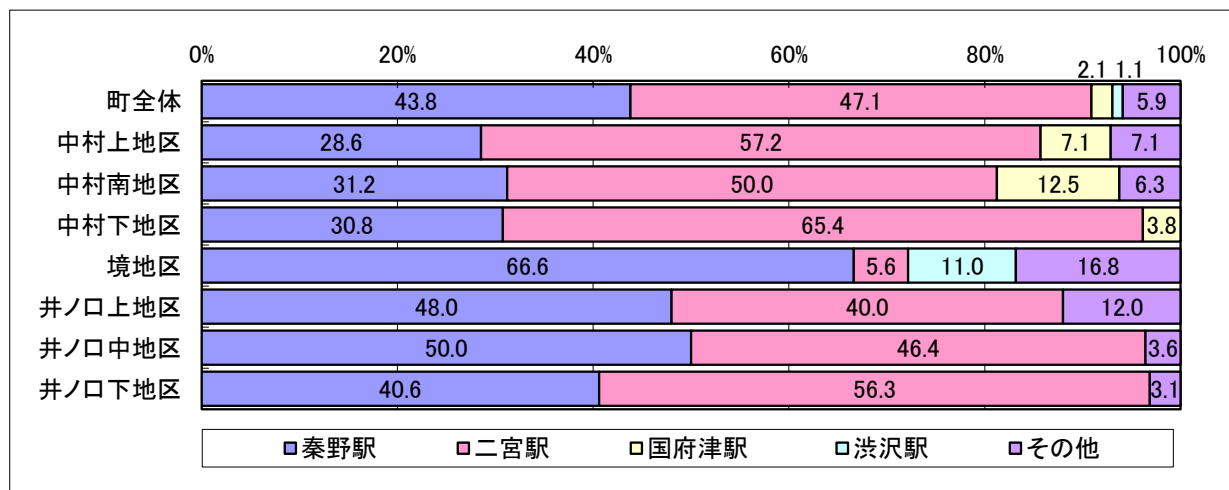
■外出する際の利用交通手段



### ④鉄道利用

鉄道の利用駅については、「二宮駅」が47.1%と最も多く、次いで「秦野駅」43.8%となっているが、境地区においては秦野市に隣接していることから、秦野駅に次いで、「渋沢駅」が11.0%となっている。小田原市に隣接する中村地区では「国府津駅」の利用も見られる。

■地区×鉄道利用駅

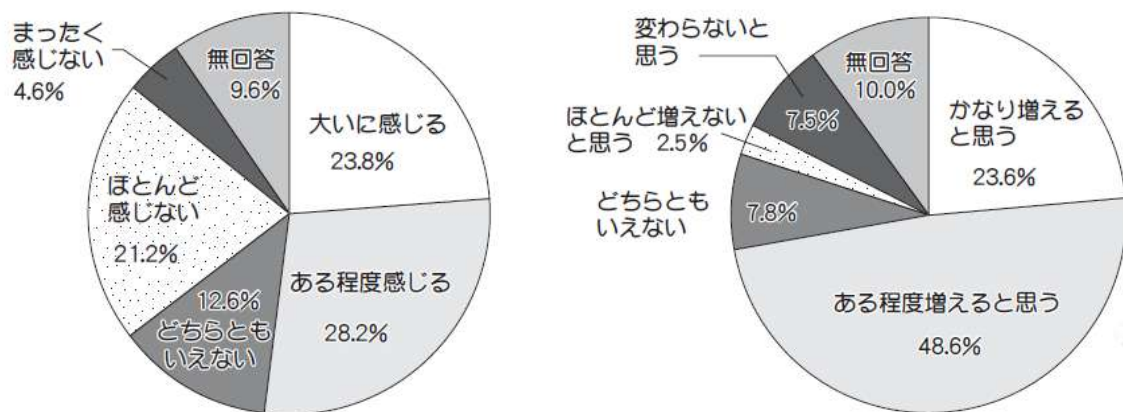


### ⑤ 日常の交通行動の不便さ

日常の交通行動における不便さは、全体の 52.0%が「大いに感じる (23.8%)」、「ある程度感じる (28.2%)」と回答しており、不便と感じている方が半数以上となっている。

日常の交通行動の不便さで「大いに感じる」「ある程度感じる」と回答した方の不便と感じる場所は、「駅」が 78.2%と最も多く、不便さが解消された場合の外出機会の変化については、該当者の 72.2%が「かなり増えると思う (23.6%)」、「ある程度増えると思う (48.6%)」と回答しており、不便が解消された際の外出機会の増加が見込まれる。

■ 日常の交通行動における不便さの程度 ■ 地区×不便さが解消された場合の外出機会の変化  
(不便さで「①大いに感じる」「②ある程度感じる」と回答した方のみ)

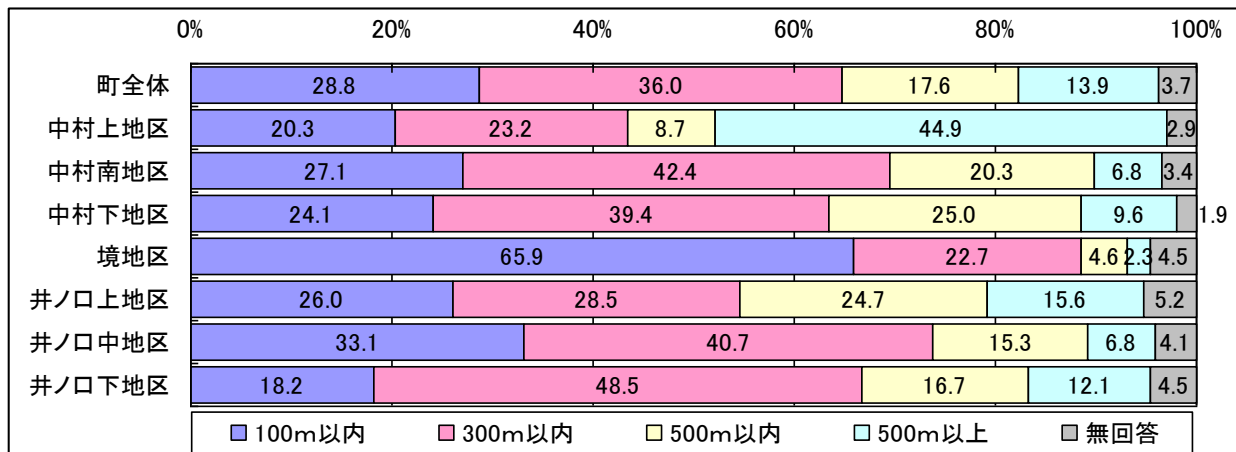


## (2) 路線バスの利用状況及び満足度

### ① 自宅から最寄のバス停までの距離

自宅から最寄のバス停までの距離は、「300m以内」が 36.0%と最も多く、次いで「100m以内」が 28.8%となっている。地区別にみると、公共交通空白地域が広く存在する中村上地区では、「500m以上」の割合が 44.9%と多く、また、井ノ口上地区でも「500m以内 (24.7%)」、「500m以上 (15.6%)」と多くなっている。

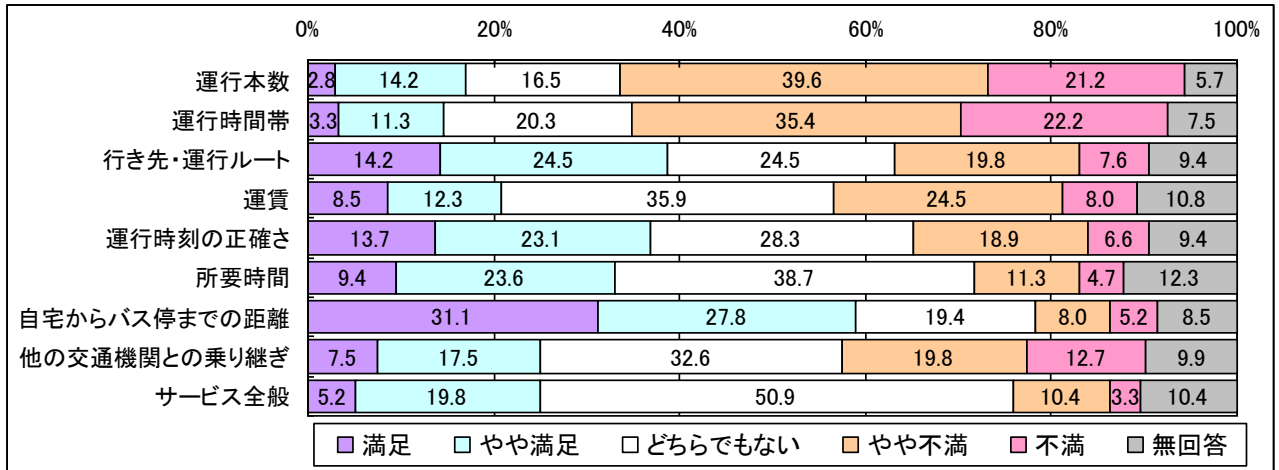
■ 地区×自宅から最寄のバス停までの距離



## ②路線バスの運行サービスに対する満足度

路線バスの運行サービスに対する満足度は、運行本数及び運行時間帯で「不満」「やや不満」と感じている方がそれぞれ60.8%、57.6%と「満足」「やや満足」よりも多い。

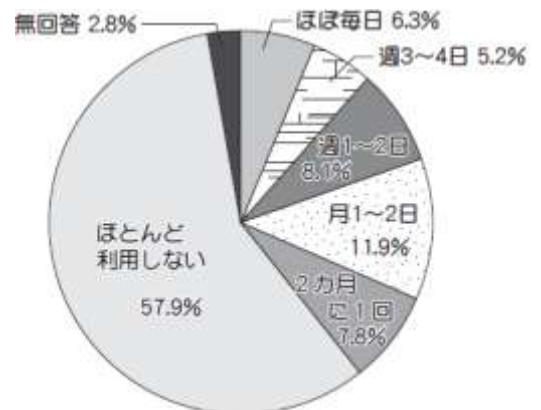
■路線バスの運行サービスに対する満足度（町全体、n=212）



## ③路線バスの利用頻度

路線バスの利用頻度は、「ほとんど利用しない」が57.9%と最も多くなっている。

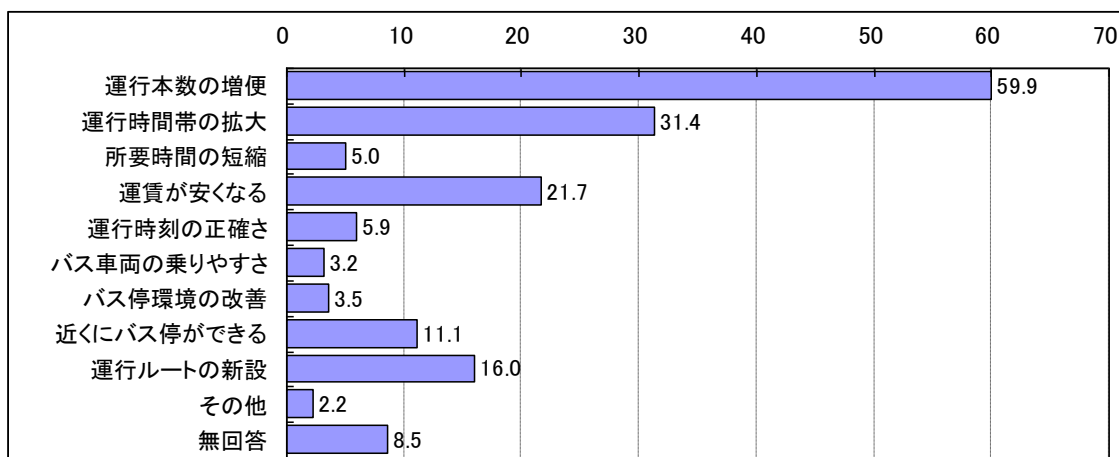
■路線バスの利用頻度（町全体、n=212）



## ④町内の路線バスを利用しやすくするために必要な施策

路線バスが利用しやすくなるために必要な施策としては、「運行本数の増便」が59.9%と最も多く、次いで「運行時間帯の拡大」31.4%、「運賃が安くなる」21.7%となっている。

■路線バスが利用しやすくなるために必要な施策（町全体、n=212）

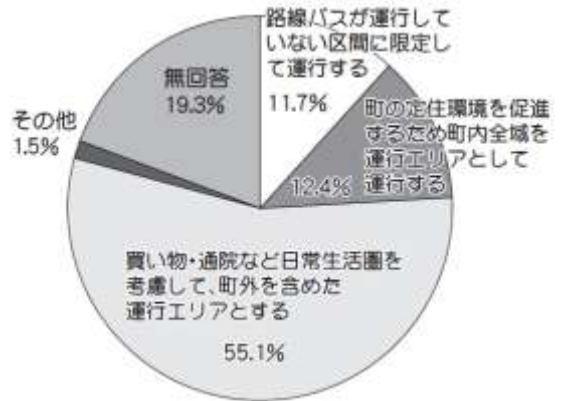


### (3) 新しい交通システム（デマンド型交通）の利用意向

#### ① デマンド型交通を導入する場合の運行エリア

デマンド型交通を導入する場合の運行エリアとしては、「買い物・通院など日常生活圏を考慮して、町外を含めた運行エリアとする」が全地区で過半数を占めている。

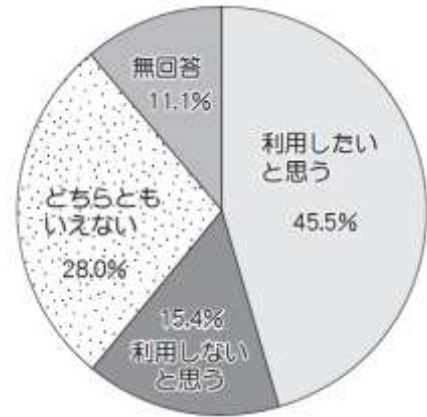
■ デマンド型交通を導入する場合の運行エリア



#### ② デマンド型交通が導入された場合の利用意向

デマンド型交通システムが導入された場合の利用意向は、「利用したいと思う」が 45.5%と最も多く、特に公共交通空白地域が点在する中村上地区は 56.5%と半数以上の割合を占めている。

■ デマンド型交通が導入された場合の利用意向

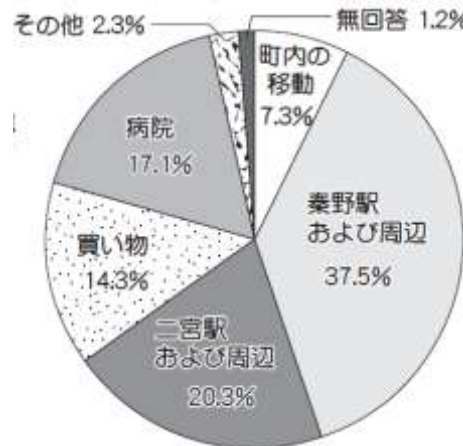


年齢別にみると、10歳代や65歳代以上のいわゆる交通弱者と呼ばれる世代を中心に幅広い世代からデマンド交通の利用意向がみられる。

#### ③ デマンド型交通を利用して行きたい場所

デマンド型交通を利用して行きたい場所としては、「秦野駅及び周辺（48.2%）」、「二宮駅及び周辺（26.1%）」、「病院（22.0%）」、「買い物（18.4%）」の順で、町内の移動よりも広域利用へのニーズが高い。

■ デマンド型交通を利用して行きたい場所



<p><b>20代 女性 (中村南)</b> 二宮駅～秦野駅の直通便があると便利。直通便が難しいのであれば、乗り継ぎを良くしてほしい。また、最終バスの時間が早すぎるため、帰りの時間帯での利用ができない。もう少し遅い時間帯のバスを増便してほしい。</p>	<p><b>30代 女性 (中村上)</b> 子どもの通学に送迎が必要のため、通勤時間にも影響が出ます。せめて子どもの帰宅時間だけでもスクールバスのようなものがあればと思います。</p>	<p><b>40代 女性 (境)</b> バス路線の所々に無料の駐車場を設置して、町民に無料バスを発行して駐車できるようにしてください。バス停まで自由に行けるようになれば、もっと利用したいと思います。</p>	<p><b>60代 女性 (中村上)</b> 今は車で出かけたり、家族に送ってもらったりしています。いずれ歳をとって運転ができなくなったとき、今のままのバスの運行状態では外出もままならなくなり不安です。安心・便利に利用できるシステムがあればと思います。</p>	町民アンケート からの自由意見
--	---	--	--	--------------------

## 2-2 企業アンケート調査

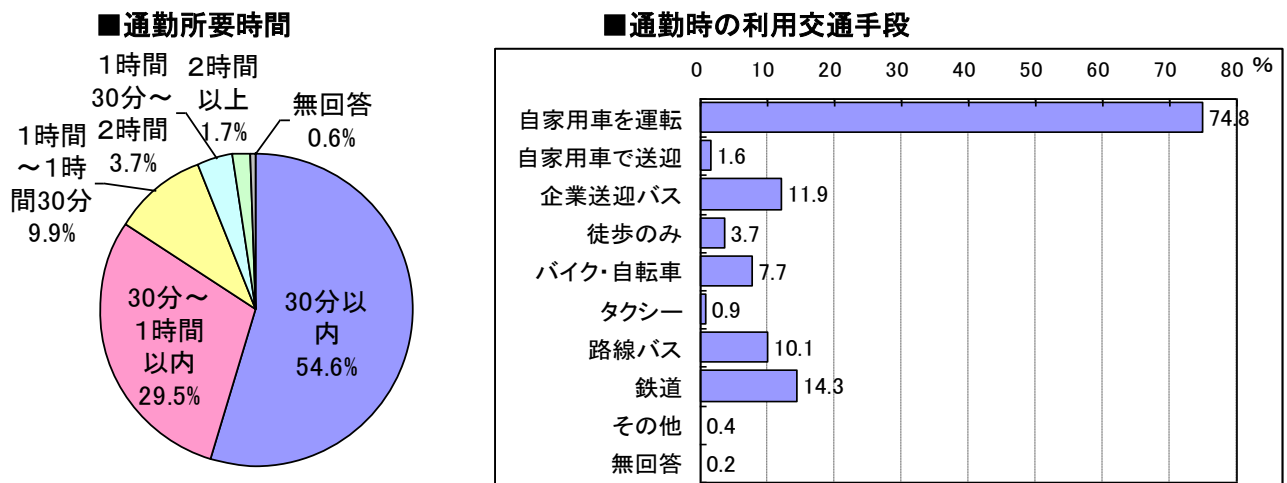
町内の企業を対象に、町内就業者の動向や企業の対応状況を把握することを目的に企業アンケート調査を行った。

### ■通勤者アンケート調査概要

調査期間	平成 23 年 9 月中旬～9 月下旬
調査方法	総務課など窓口へ直接依頼し郵送配布、郵送回収
調査対象者及び調査票数	町内の企業 12 社従業員（1 社あたり 10～100 票程度）
調査項目	○属性（性別、年齢、居住地） ○通勤の状況（通勤所要時間、通勤時の利用交通手段とその理由、路線バスの運行サービスに対する満足度） ○公共交通の利用（自動車やバイク等から公共交通へ変更する可能性、公共交通を充実するために必要な施策）

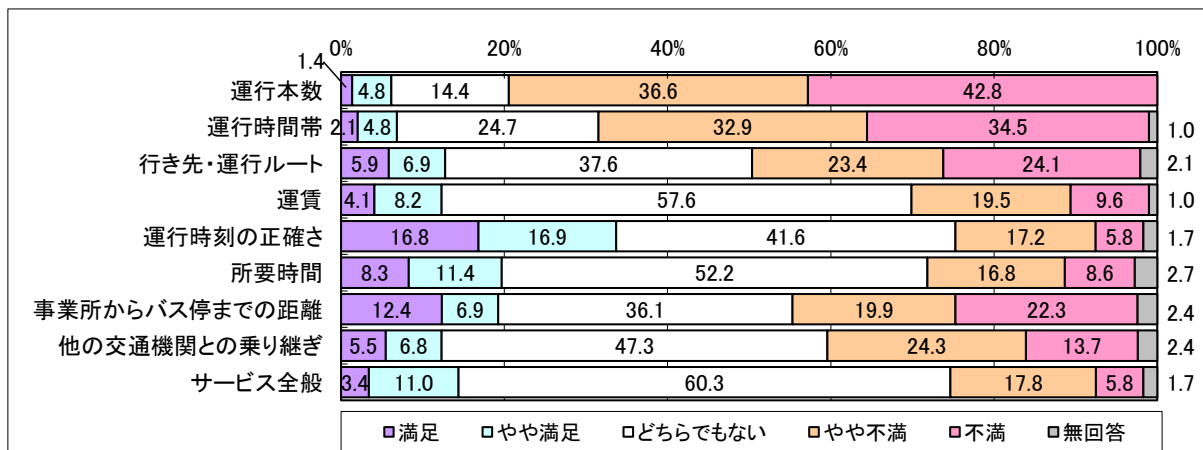
### ①通勤の状況

通勤の所要時間は近隣市町からの通勤者が多いため、「30分以内」が54.6%と最も多く、次いで「30分～1時間以内」が29.5%と、1時間以内の通勤者が約8割となっている。通勤時の交通手段は「自家用車を運転」が74.8%と最も多く、路線バス利用者は10.1%にとどまっている。



路線バスに対する「満足」「やや満足」は、運行時刻の正確さで「満足」「やや満足」が33.7%と「やや不満」「不満」の23.0%を上回っているものの、総じて各サービスで不満度（やや不満、不満）が高く、特に運行本数で79.4%、運行時間帯で67.4%と多くなっている。

### ■路線バスに対する満足度（路線バスを利用したことのある方のみ）

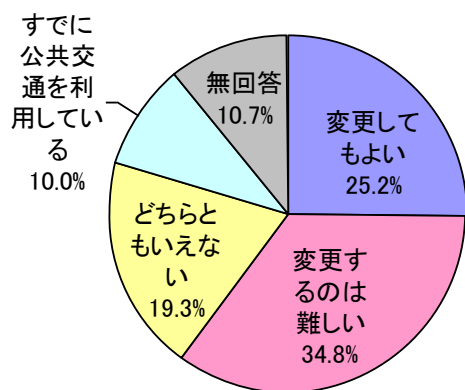


## ②公共交通の利用意向

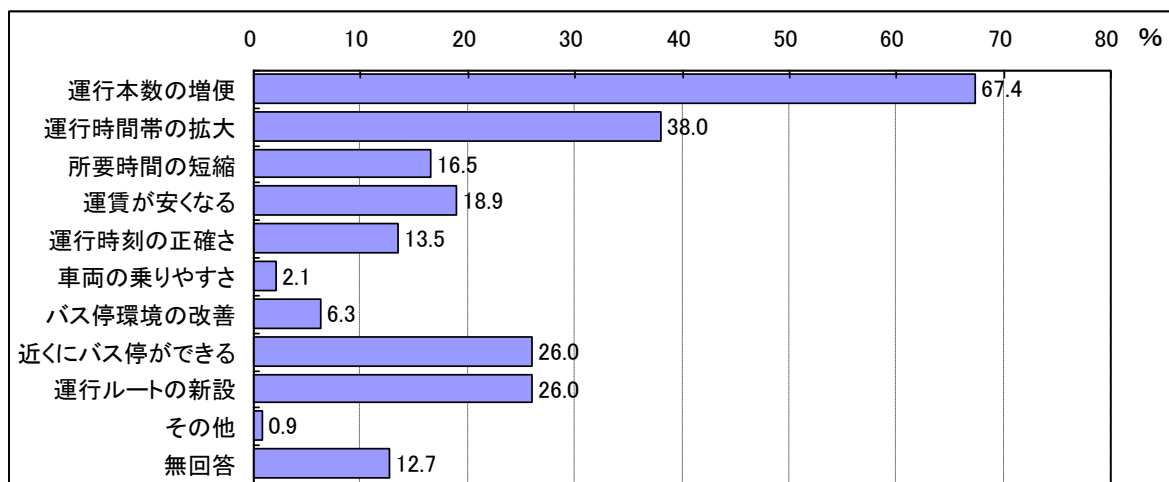
公共交通が充実して通勤に利用することができるようになった場合、公共交通への変更の可能性は、「変更するのは難しい」が34.8%と最も多いものの、「変更してもよい」が25.2%と全体の1/4を占めている。

公共交通を充実させるために必要な施策としては、「運行本数の増便」が67.4%と最も多く、次いで「運行時間帯の拡大」38.0%となっており、現行の路線バスに対する満足度が低いことがうかがえる。

### ■自動車等から公共交通への変更の可能性



### ■公共交通を充実させるために必要な施策



### 3 生活交通を取り巻く課題の整理

中井町の公共交通に関する現況や上位計画における公共交通の位置付け及び地域公共交通アンケート調査結果（町民アンケート、企業アンケート）などを踏まえ、生活交通を取り巻く課題を整理する。

#### ①公共交通空白地域の解消による町民の足の確保

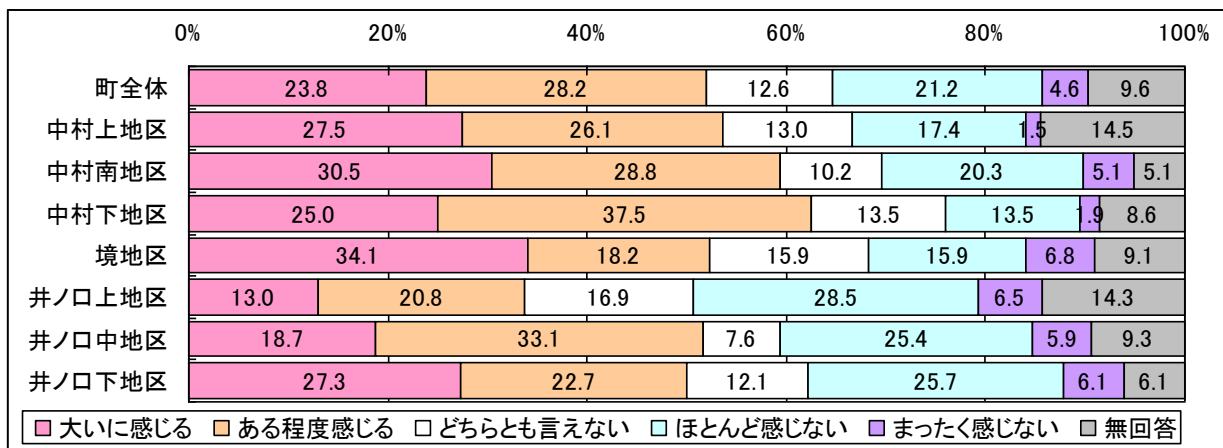
中井町は鉄道がなく、民間バス路線が幹線道路を中心に運行しているのみで、中村地区を中心に公共交通空白地域（バス停より半径 300m 以遠のエリア）が広く存在している。

町民アンケート調査によると、日常の生活交通における不便さの程度では、「大いに感じる」「ある程度感じる」と不便を感じている方が、中村上地区（53.6%）、中村南地区（59.3%）、中村下地区（62.5%）及び境地区（52.3%）で町全体（52.0%）を上回っている。

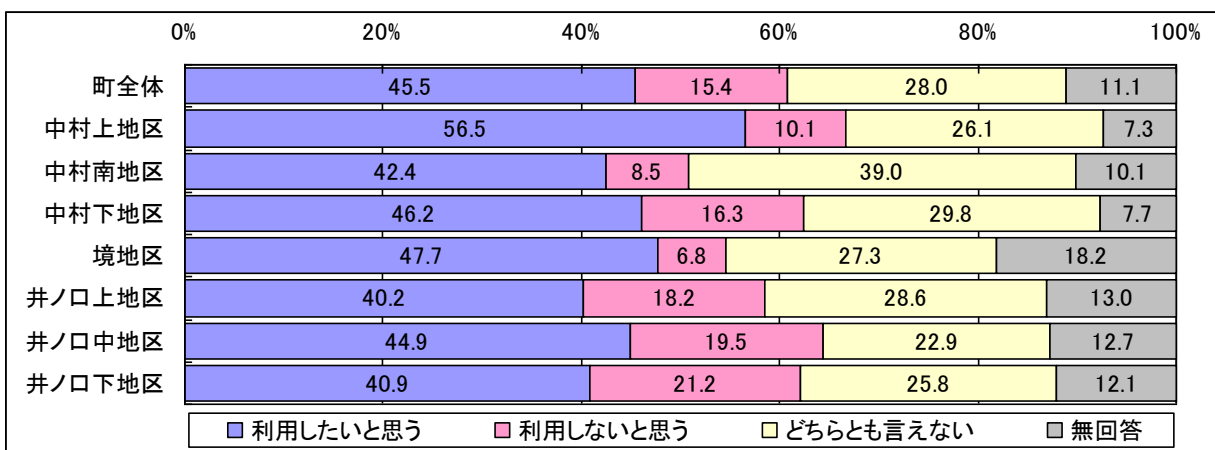
また、デマンド型交通が導入された場合の利用意向を見ると、町全体では「利用したいと思う」と回答した方（45.5%）が「利用しないと思う」と回答した方（15.4%）を大きく上回り、特に中村上地区、境地区及び中村下地区で利用意向が多くなっている。

このため、これら公共交通空白地域を主対象に、デマンド型交通など新たな交通システムの導入により、地域住民の生活交通を確保していくことが必要である。

■日常の生活交通における不便さの程度（町民アンケート）



■デマンド型交通が導入された場合の利用意向（町民アンケート）



## ②民間バス路線の維持と利便性の向上

民間バス路線は、最寄りの鉄道駅であるJR東海道線二宮駅と小田急線秦野駅などを連絡しているものの、近年、利用者数は年々減少傾向にあり、町西部（中村地区）を運行する路線（二宮駅～高尾など）で運行本数が少なくなっている。

町民アンケート調査によると、路線バスは買物、通院、通勤など多様な目的で利用されており、路線バスを利用する理由では「他に交通手段がない（42.0%）」、「自家用車が利用できない（30.7%）」といった回答が多く、路線バスは町民生活を送る上で欠かせない交通手段である。

路線バスの運行サービスに対する満足度は、特に運行本数での「不満」「やや不満」が60.8%、運行時間帯では57.6%と不満度が高く、また、路線バスが利用しやすくなるために必要な施策でも両施策が上位に挙がっている。第五次中井町総合計画後期基本計画策定に向けた就業者アンケート調査（平成21年9月）によると、町が行う支援策として重要と思うことについては、「公共交通機関の充実」が圧倒的に多くなっている。

さらに、路線バスをほとんど利用しない方を対象にした町民アンケートの質問では、バスが今よりも便利になった場合、利用すると回答した人も多く、通勤者アンケート調査でも通勤時の利用交通手段は、自家用車が74.8%と大半を占めているものの、公共交通が充実して通勤に利用することができるようになった場合、約4人に1人が「変更してもよい」と回答していることから潜在的な利用ニーズが高い。

このため、路線バスの維持と利便性の向上に向けて、これら町民ニーズ、就業者ニーズ等を踏まえつつ、路線の見直しやサービス向上をバス事業者に働きかけていくことが必要である。

## ③路線バスや新たな交通システムとの連携による隣接市町との連携強化

買い物や通院など、町民の主な日常生活圏は、町内に駅や日常生活に必要な施設（商店、医療施設など）が少ないため、秦野市や二宮町など隣接する市町への移動が多くなっている。

町民アンケート調査結果によると、外出先は、町内が14.1%で、秦野市、二宮町、小田原市など町外への移動が83.4%と大半を占めている。

このため、町民生活を支え利便性の高い公共交通ネットワークを構築するためには、町内だけでなく、町域を跨ぐ広域的な公共交通に取り組むことが重要で、路線バス同士の接続や、路線バスと新たな交通システムと連携を図りながら検討することが必要である。



#### ④企業と連携した企業送迎バスの有効活用

中井町内の企業を対象とした事業者アンケート調査（配布：15 事業所）によると、回答があった 11 事業者のうち、6 事業者で従業員用送迎バスを運行中で、運行理由としては「路線バスのダイヤが通勤時間帯にない（少ない）」から」と回答された事業者が多くなっている。

また、今後の従業員の通勤のあり方としては、「複数の企業が協力して共同で運行することが望ましい」と回答された事業者が、11 事業者のうち 9 事業者であり、さらに、「路線バス等の公共交通が充実し、従業員用送迎バスを運行しなくても通勤できるようになることが望ましい」と回答された事業者が、11 事業者のうち 7 事業者と多く、企業送迎バスの効率的な運用や公共交通の充実が求められている。

このため、企業送迎バスの共同運行や企業等と連携した地域住民の足の確保（混乗化）など企業送迎バスの有効活用について検討することが必要である。

#### ■従業員用送迎バスの運行状況

	料金・台数	運行理由※	運行方法	運行時間帯	送迎区間
富士ゼロックス(株)	無料	①・③・④	バス車両、 運転手とも外注（運 行委託）し ている	7：30～21：30	・秦野駅～事業所間 ・二宮駅～事業所間
日立コンピュータ機 器(株)	無料 複数台	①・②・③・⑤		出勤時間・退勤時 間・日中 1 本/時	・秦野駅～事業所間 ・二宮駅～事業所間
(株)日立ハイテクノ ロジーズ	無料	①・③・④・⑤		7：35～22：55	・秦野駅～事業所間 ・二宮駅～事業所間
(株)日立情報システム ズ(現在:日立システムズ)	無料	①・②・③		7：35～23：00	・秦野駅～事業所間 ・二宮駅～事業所間
ピースハウス病院	無料 2台	①・⑥（徒歩だ と危険なため）	自社で、バ ス車両・運 転手とも 確保し運 行してい る	7：40～20：10 17：30～20：00	・秦野駅～事業所間 ・二宮駅～事業所間 ・井ノ口小学校～事 業所間
レインボーカントリー 倶楽部	無料 2台	⑥（お客様用送 迎車両に同乗）		7：10～8：45 14：55～18：00	・秦野駅～事業所間 ・二宮駅～事業所間

※①路線バスのダイヤが通勤時間帯にない（少ない）から

②路線バスではピーク時の従業員利用に対応できないから

③路線バスよりも駅などからの所要時間を短縮できるから

④自社で運行したほうが従業員の移動にあわせて弾力的に運行できるから

⑤従業員の就労条件向上のため

⑥その他（ ）



▲レインボーカントリー倶楽部送迎バス



▲日立情報システムズ（現在：日立システムズ）送迎バス